歌やゲームで和気あいあい

先月七日、問瀬小学校で毎年恒例の「祖父母・孫七夕ふれあいの会」が開かれました。寿学級の人たちとは一年ぶりの再会とあってどの顔も嬉しそう。歌やゲームで楽しんだり、竹トンボのプレゼントがあったりと賑やか。そして最後は昼食を食べながら心温まる交流を存分に楽しみました。

自慢の歌や踊りを披露

第6回　芸能発表会

先月二日公民館講堂で第六回芸能発表会が開かれました。この日は民謡クラブや愛好会など六団体約百名が参加して行われ、日ごろの練習してきた成果を発表できる場とあって、参加者たちは自慢の歌や踊りを存分に披露していました。

熱心に意見交換

地域懇談会

青少年育成村民会議では、ことしも村保護司や小中学校、ＰＴＡなどと共催で地域懇談会を開催しました。連日各会場とも、学校とは違った雰囲気のなかで様々な意見交換がなされ、子どもたちに対する問題や要望などが時間を忘れ真剣に話し合われていました。

心地よいボランティア

村商工会婦人部（会長山田喜代子さん）では、先月二日部員約三十名が参加して間瀬下山海岸の浜清掃を行いました。このボランティアは同婦人部が毎年行っているもので、この日も朝五時三十分に集合。心地よい潮風の吹く中、浜清掃に汗を流していました。

真夏のプレーボール

女子ソフトボール大会

熱い声援が飛びかった女子ソフトボール大会。村内事業所や各集落から９チームが参加し、先月９日村民球場と和小グラウンドで、熱戦がくりひろげられました。結果は次のとおりです。①和納レディス②末広ナインズ③間瀬女子ソフト　敢闘賞和納７区

『家庭看護教室閉講式』

寝たきり者の看護や、食餌療法を学んだ「家庭看護教室」の閉講式が先月十二日保健センターで開催されました。この閉講式には四回の講習を終了した四十人が参加して行われ、これまで学んだ講習についてのおさらいや講演などを聞いた後、巻保健所長から修了証書がそれぞれに手渡されました。

■この広報紙にあなたが写っていましたら、総務課企画係（☎82－4111内線 215）へご連絡ください。写真をさしあげます。

お誕生日おめでとう
&
わが家のアイドル

申し込みは毎月10日まで（3歳まで）

難波努（なんば つとむ）くん
（栄・正藤さんの二男）
昭和61年8月18日生まれ

三人兄弟の末っ子のせいか、お兄ちゃんやお姉ちゃんに負けないくらいやんちゃな今日この頃です。それにツッくんはきれい好き。将来は、誰にも負けない元気な子になってほしいですねと…お母さん。

本田祐貴（ほんだ ゆうき）くん
（和納12区・記代志さんの長男）
昭和61年4月29日生まれ

マスクマンが大好きな祐ちゃん。毎日、元気いっぱいに遊んでいます。弟とも大の仲好し。これからも元気にすくすくたくましい子になってくれれば…と願うお母さん。

このひと No.22

竹内虎五郎（たけうち とらごろう）さん（和納五区）

京都・祇園の流れをくみ祭り囃子（ばやし）を皮切りに、伝統芸能の「棒遣（ぼうつか）い」や神輿行列が繰り出し、伝統の重みを感じる――和納十五夜祭り。その祭りのフィナーレを飾るのが、八幡神社境内で華麗に繰り広げられる仕掛花火に草花火。この花火見たさに毎年大勢の見物人が詰めかけてきます。

そこで、今月号の「この人」は、この見事な仕掛花火や草花火の準備から打ち上げまでを一手にまかるのが花火方の人たちで、その代表を務める竹内虎五郎さん（和納五区・58歳）をご紹介します。

花火方をやって30年の竹内さん

竹内さんは、この花火方（仕掛の趣向から準備、打ち上げまでをやる人たち）をやりはじめてもう三十年。親父の跡を継いではじめたという親子二代にわたる花火師です。「この花火方になったきっかけは、親父もやっていた関係で仕方なくはじめました。でも、何んだかんだでもう三十年もやっていますよ」と花火方になったきっかけを話す竹内さん(笑)

ところで、この豪快かつ華やかに繰り広げられる花火。その種類は「三社灯籠」「御神灯」「バレン」「国旗」「露払い」などと花火方独自で考え出した仕掛は数十種類もあるといいます。それに以前は、この仕掛や草花火を竹内さんら花火方の手で火薬の調合から仕掛作りまでを全て行っていたといいます。

「昔は、花火小屋といった倉が5～6ケ所もあり、そこで花火の調合などをやっていました。この火薬の調合が一番難かしく、ちょっとした配合の違いで花火の色が変ってきます。それに、試し上げの時などによくヤケドもしましたね。それに、最近は規制が厳しくなってきましたので、火薬の調合などはほとんど専門業者のところでやっています。でも、一番肝心な仕掛の組立て、配列なんかは昔同様この花火方の人たちで取り仕切っています」と話す竹内さん。そんな昔ながらの伝統技法を守り続ける花火方七人衆。そのすばらしい腕をかわれ、近隣町村をはじめ他県にも花火の打上げを頼まれて行くこともあるといいます。

「以前は京都や大阪まで打上げに行ったこともありました。それに、最近でも吉田や弥彦、間瀬などへも応援に行きます。今までいろんな花火を見ましたが、でも、やっぱり和納の花火が一番ですね」と話す。そして、和納の仕掛花火についてこうも語ります。「今は、打上げる量も多く、それなりに見どころもあります。でも、情緒や迫力に欠けてきました。それも仕方がないことなんですが、もともと神社境内ということもあって場所も狭く、それに最近は見物人が大勢来られ危険ですので、バレンや打上げなどが仕掛けられずちょっと寂しいですね。その点、昔は打上げる数は少なかったものの情緒や迫力はありましたよ」と話す竹内さん。それに竹内さんらのもう一つの悩みは、花火方になる後継者がいないこと。ですから、いまいる七人の花火師たちでこの伝統花火を守り続けています。「この伝統ある仕掛、草花火はなくせません。私も出来る限り続けていこうと思います」と花火に対する情熱が人一倍感じられる竹内さんでした。

華麗な花火を見せてくれる立役者、花火方の皆さん